

高橋竹山ライブ in 日光

新・日光市誕生記念チャリティーイベント



18歳で初代・高橋竹山の内弟子となり、津軽三味線と歌の道に入る。津軽が育んだ音楽を基盤にして、さまざまなジャンルの音楽との融合を積極的に試みる二代目・高橋竹山。初代とはひと味違う演奏と歌をお楽しみ下さい。

2006年5月27日(土)

開場:午後6時30分 開演:午後7時

会場:日光市中央公民館中ホール (旧・今市生涯学習センター中ホール)
栃木県日光市平ヶ崎 0288-22-6211

主催:サムシング 協力:特定非営利活動法人 和音



連絡先:須佐佳子 0288-26-3990 <http://www.somesing.net/>

後援:今市市社会福祉協議会、今市市教育委員会、今市市文化協会

二代目・高橋竹山プロフィール

幼少の頃に三味線に出会い、11才で稽古を始める。

17才の時、津軽三味線奏者の高橋竹山のレコードを聴いたのがきっかけとなり、18才で竹山の内弟子となる。三味線のみならず、名人とうたわれた故・成田雲竹の格調高い津軽民謡も師・竹山から学びながら、高橋竹与(ちくよ)の名で師・竹山と共に舞台に立つ。内弟子生活6年を経て1979年に自立。翌1980年、初の独演会を東京・渋谷ジャン・ジャンで開く。以来、独自の演奏活動を行いながら、師・竹山について、日本国内はもとより、1986年のアメリカ7都市公演、1992年のフランス・パリ公演など、海外でも共演する。

1995年6月:師・竹山から独立して15年目を迎えたのを期に、初のCDアルバム「津軽三味線とその試み」(ディスク ジャン・ジャン)を発表。三味線独奏曲や師・竹山との三味線二重奏曲などの他、天才劇詩人として時代を駆け抜けた故・寺山修司が、生前に竹与の為に作詞し竹与自身が作曲した『さらば東京行進曲』、『歌のわかれ』、『せきれい心中』、『紅がすり抄』、北海道民謡『江差追分』とアラブの民謡をベースにした、ヴァイオリンの太田恵資との即興的セッション『北の唄』、三味線とジブシーヴァイオリンが交錯するトルコ舞踊曲『ロンガ・シャーナーズ』などを収録。

1996年8月:イギリスのエジンバラ・フェスティバルに参加。以後、毎年参加している。

1997年1月:「高橋竹与」改め「二代目・高橋竹山」を襲名。襲名披露演奏会(ゲスト出演=初代・竹山)を渋谷ジャン・ジャンで開く。

1998年9月:二代目襲名後の初CD「三味線口説く」(ディスク ジャン・ジャン)を発表。

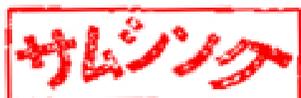
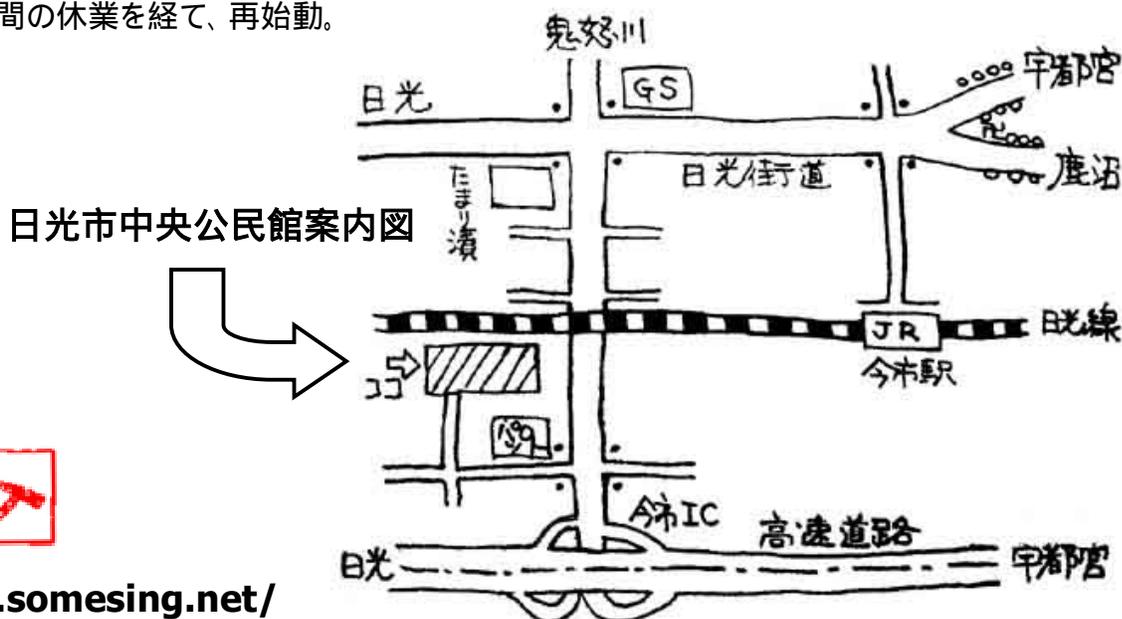
同年10月:アメリカ・ロサンゼルス、シアトルにて公演。ジャズフェスティバルにも参加。地元のジャズミュージシャンと競演する。

2000年2月:ニューヨーク・フロム・ジャパンの招きで、ワシントン、ニューヨークにて公演。

同年、2枚組CD「chikuzan」を発表。

基本を大切にしながらも民謡にこだわらず、様々なジャンルの演奏家たちと共演して活動の場を広げながら、独自の音楽表現を模索。伝統にモダンな現代感覚と女性らしい繊細さを盛り込んで全国各地をまわり、演奏活動を続ける。

2000年から2年間の休業を経て、再始動。



<http://www.somesing.net/>